

平成 19 年度の活動について



6月1日 第1回協議会

平成19年度の事業計画について協議し、各地域の実情に合わせたモデル施策の実施や、地域フォーラムを開催することを決定しました。また、それぞれの施策ごとに、関係委員によるワーキンググループを設置し、実施に向けたより具体的な検討を行っていくことになりました。

《協議会での議論》



8月18日 芳賀町モデル施策(イベントに合わせた臨時バスの運行)

芳賀町の現状

路線バスが年々減少し、交通渋滞が激しい花火大会に公共交通の利用を呼びかけようとしても、宇都宮駅に帰るバスがないといった現状があります。

モデル施策の内容

花火大会終了後に、JRバス関東が臨時バスを運行、バスによる来場を呼びかけ、公共交通の利用機会を提供しました。

《夜間の臨時バス》



10月13/14日 鹿沼市モデル施策(市営バス無料デーのPR)

鹿沼市の現状

路線バスの廃止等に伴い市営バス(リーバス)を運行していますが、その利用促進が課題となっています。

モデル施策の内容

鹿沼市がリーバスの利用機会を増やそうと実施した、秋祭り時の「リーバス無料デー」について、ポケットティッシュを作成、広くPRを行いました。

また、鉄道利用者の利用環境向上のため、東武新鹿沼駅周辺にリーバス案内板を設置しました。



《リーバスPRポケットティッシュ》

1月スタート 真岡鐵道沿線地域モデル施策(真岡鐵道の利用促進)

真岡鐵道の現状

真岡鐵道は、芳賀郡の沿線住民の貴重な足として運行してきましたが、マイカーの普及や少子化により利用者が減少しています。

モデル施策の内容

東野バスの七井駅(益子町)での真岡鐵道との接続強化、真岡温泉と連携した割引キップ発売などをPRするチラシを作成、時刻表とともに配布しました。また、鉄道利用者の利用環境向上のため、七井駅周辺に東野バスのバス停までの案内板を設置しました。



《真岡鐵道PRチラシ》

モビリティ・マネジメント(MM)施策の継続調査

実施概要

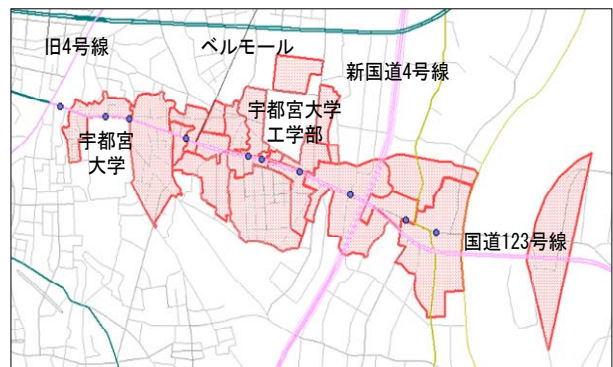
平成18年度に、国道123号線沿線地域で実施した「モビリティ・マネジメント」(以下、MM)の実施効果の継続性や、「統合時刻表」の住民ニーズを把握するため、平成18年度のアンケート協力者に対し、継続アンケート調査を実施した。

また、実施にあたり、平成18年度の実施結果を対象地域に広く報告をするため、ニュースレターを作成し、全世帯に配布した。

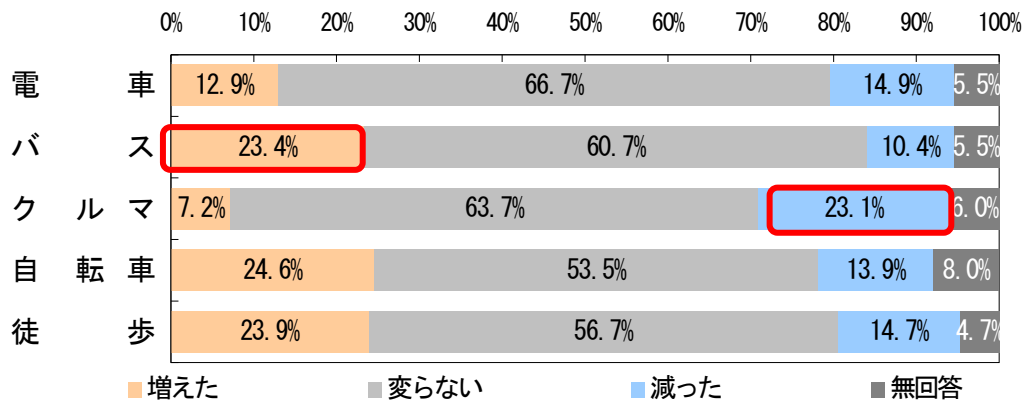
ニュースレター



調査対象地域



□「去年と比べて交通手段の利用状況に変化はありましたか？」への回答



⇒MM実施の1年経過後においても「クルマ利用が減少(23.1%)」し、「バス利用が増加(23.4%)」していることがわかる。

調査結果のまとめ

- MM実施1年後も、公共交通に対する意識の向上は維持されており、また、交通行動についてもクルマから公共交通などへの利用転換が進んでいる。
- MMは、公共交通の利用促進に向けて効果的な施策であり、また、取組を継続していくことにより、その効果も持続させることができる。
- 国道123号線沿線地域では、引き続き情報提供等の取組を実施していくとともに、MMが実施可能な地域に拡大していくことが望ましい。

高根沢町フォーラム開催

- ・名 称 「まちづくりと公共交通」
～高根沢町と公共交通の未来を一緒に考えてみませんか？～
- ・日 時 平成20年2月13日（水）
- ・場 所 高根沢町元気あっぴむら
- ・参加者 60名



基調講演では、宇都宮大学准教授の森本章倫さんから「公共交通はなぜ必要か」「公共交通を再生するにはどうしたらいいか」「公共交通再生における行政の役割について」話があり、最後に、もっと住民のみなさんに公共交通に乗ることをこころがけてほしいとのお話がありました。

パネルディスカッションでは、高根沢町長、高根沢老人クラブ連絡協議会会長、TMO高根沢副委員長協議会委員の方と会場に来られた方も交えて意見交換を行いました。その中で、「高根沢町に望ましいのはデマンド方式なのではないか」「地域内交通を作るのであれば、周辺市町との連携、協力が必要である」という意見がでました。



《基調講演を聞く住民》

3月17日 第2回協議会

第2回協議会では、モデル施策の実施結果について、宇都宮市で実施されたMMの継続調査の結果報告、高根沢町フォーラムの開催報告を行いました。

また、平成17年から19年度までの取組を踏まえ、平成20年度は、新たな利用促進策について検討することや、これまでのフォーラム等の意識啓発活動を継続して実施していくことを決定いたしました。



《協議会意見交換の様子》